

第3回ストラクチャークラブ・ジャパン近畿・中四国支部会 ～学術講演会～

日時

2014年8月23日(土) 14:30-18:15(予定)

場所

淡路夢舞台国際会議場 2F レセプションホールB

兵庫県淡路市夢舞台1番地

TEL 0799-74-1020

開会の挨拶 細川 忍 先生 徳島赤十字病院 循環器内科 部長

座長 新家 俊郎 先生 神戸大学医学部附属病院 循環器内科 准教授

福 康志 先生 倉敷中央病院 循環器内科 部長

《Lecture》 14:35～14:55

「 2型糖尿病の新たな治療戦略 」

橋本 尚子 先生 兵庫県立姫路循環器病センター 糖尿病内科 医長

《Case Report》 14:55～15:15

「 経皮的心房中隔欠損閉鎖術後、約12時間後に心タンポナーデに陥った1例 」

¹佐和琢磨、¹田中秀和、¹元地由樹、¹松本賢亮、¹大竹寛雅、¹新家俊郎、²松森正術、²大北裕、¹平田健一

¹神戸大学大学院 循環器内科学分野

²神戸大学大学院 心臓血管外科学分野

《Mini Lecture》 15:15～16:15 (20分×3)

I. 「 弁膜症の血行動態等(仮) 」

丸尾 健 先生 倉敷中央病院 循環器内科 部長

II. 「 TAVIにおける術中経食道心エコーは必要か? 」

原田 顕治 先生 徳島県立中央病院 循環器内科 科医長

III. 「 ICE関連の演題(仮) 」

麻植 浩樹 先生 岡山大学病院 超音波診断センター 助教

《Key Note Lecture》 16:15～16:45

「 SHDインターベンションのためのCT(仮) 」

溝手 勇 先生 大阪大学医学部附属病院 先進心血管治療学 助教

* 参加費として、2000円を徴収させていただきます。

* 会終了後に情報交換会を準備しております。

* 本会におきましては、共催会社による旅費の負担が出来ませんことをご了承ください。

～ Coffee Break ～

《Special Lecture》 17:05～18:15

座長 細川 忍 先生 徳島赤十字病院 循環器内科 部長

I : 17:05～17:40

「 奇異性脳塞栓と卵円孔開存 」

赤木 禎治 先生 岡山大学病院 循環器疾患集中治療部 准教授

II : 17:40～18:15

「 未 定 」

R. Stephan von Bardeleben 先生

University Medicine of Johannes Gutenberg-University mainz

閉会の挨拶 細川 忍 先生 徳島赤十字病院 循環器内科 部長

- * 参加費として、2000円を徴収させていただきます。
- * 会終了後に情報交換会を準備しております。
- * 本会におきましては、共催会社による旅費の負担が出来ませんことをご了承ください。

共催： ストラクチャークラブ・ジャパン近畿・中四国支部会
MSD株式会社
アボット バスキュラー・ジャパン株式会社
エドワーズライフサイエンス株式会社
セント・ジュード・メディカル株式会社

協賛： 朝日インテックJセールス株式会社
株式会社エムアイディ
株式会社エム・イー・サイエンス
大島器械株式会社
株式会社カワニシ
河野医科器械株式会社
株式会社島津製作所
シーマン株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

テルモ株式会社
東レ・メディカル株式会社
株式会社トライテック
日本ライフライン株式会社
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン
フクダ電子兵庫販売株式会社
株式会社ホクシンメディカル
ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社
宮野医療器株式会社
株式会社ライトテック

ストラクチャークラブ・ジャパン近畿・中四国支部会事務局

【問い合わせ先】 トップツアー株式会社 メディカルカンファレンスセンター 大阪内

TEL 06-4799-0118/FAX 06-4799-0128

Ralph Stephan von Bardeleben, MD

Senior Interventional Cardiologist

Structural Heart, Internal Medicine, Cardiology

Medical Center of Johannes Gutenberg University Mainz University



Stephane von Bardeleben (SvB) 先生は、Structural Heart Intervention の先進国であるドイツの中でもいち早く臨床に最新のデバイス治療を取り入れた先駆者であり、特に、経食道心エコー図（TTE）ガイド下に行うインターベンションにおいては世界的にも著名な先生です。

所属施設のMainz University Hospital では、欧米において使用可能なあらゆるデバイスを用いた治療が実施されていますが、その中でもMitraClip を用いた重度僧帽弁逆流の治療に関しては、全世界でも10本の指に入る施設であり、2014年の5月時点で累計200例以上の治療実績を有しています。このような実績からMainz University は、MitraClip のCoE (Center of Excellence) としても認定されており、現在、ヨーロッパ内の施設が新しくプログラムを開始する際の研修拠点として重要な役割を担っています。

そういった環境の中、SvB 先生は3D心エコーに代表される最新の画像技術を活用した治療、またそういった最新技術を自施設だけでなく、他のドクターが標準治療の中に取り入れ、安全性と有効性を向上させるためのガイドラインの作成にライフワークとして取り組まれています。

今回のご講演では、MitraClip はもちろんのこと、まだ研究開発段階にある最新のデバイスの使用経験も含め、SvB先生が実地臨床の中で蓄積されてきた多くの知見を惜しみなくお話しいただけることになっています。

交通アクセス

公共の交通機関でのルート

